

平成 22 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19310167

研究課題名（和文）女性アーカイブの構築とその活用に関する実践的研究

研究課題名（英文）Practical research on women's archives and their utilization

研究代表者

神田 道子（KANDA MICHIKO）

独立行政法人国立女性教育会館・理事長

研究者番号：70058030

研究成果の概要（和文）：本研究は、ジェンダーの視点に立った女性関連資料の分析・評価と資料の効果的な活用方法を明らかにすることにより、女性アーカイブを構築することを目的に実施した。具体的な成果として、女性アーカイブを利用した研修プログラムの開発・実施、「女性デジタルアーカイブシステム」の構築・公開を行い、資料の効果的な活用・提供方法を明らかにした。また、「全国女性アーカイブ所在情報データベース」の構築・公開により、全国に散在する女性アーカイブの存在を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research was conducted with the aim of creating women's archives by analyzing and evaluating historical materials relating to women from a gender perspective, and considering ways to utilize the archives. In order to promote effective use of the women's archives, learning programs utilizing archive collections were developed and experimentally implemented, and the Women's Digital Archive System was created. In addition, Japanese Women's Archives Directory was constructed based on a survey to find the status of historical materials on women in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009 年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
年度			
年度			
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：ジェンダー研究、アーカイブ学、情報図書館学、デジタルアーカイブ、女性史

## 1. 研究開始当初の背景

男女共同参画社会の実現は 21 世紀の国の重要課題であり、法律・制度面においては男女平等が達成されつつあるが、依然として女

性が個性や能力を発揮する機会や可能性が限定されるなど、意思決定レベルへの女性の参画やキャリア選択幅の広がりには進まない状況にある。

その原因を探り、解決方法を見いだすためには、現在の女性の地位・状況がどのように形成されたかを歴史的事実にもとづいて検証し、次世代の女性に何を引き継ぎ、今後さらに何をめざしてゆくべきか、を検証する必要がある。つまり、歴史を学び、女性の地位向上の歩みをたどることが、男女共同参画社会の実現に不可欠な条件である。

しかしながら、これまでわが国においては、女性に関する研究の基盤となるジェンダーの視点で女性を捉えた資料の蓄積・提供が極めて不十分な状況にあり、研究の困難性を招いている。また、今日、市町村合併、各種女性団体メンバーの高齢化等により女性研究に必要な資料の廃棄、散逸、劣化が深刻となっており、その対応は緊急を要する課題である。統一的、総合的にジェンダーの視点に立って資料を収集・整理し、デジタル化により保存・提供する女性アーカイブの構築に関する実践的な研究が不可欠である。

我が国においては、2005年に日本アーカイブズ学会が発足し、アーカイブ研究が始まっているものの、ジェンダーの視点に立った構築、研究は殆ど行われていない。また、女性に関する資料は、現状では図書館や個人に着目した記念館などに収集されているものもあるが、それらは断片的で他資料との関連が不明確であったり、目録が未整備であるなど整備されているものは極めて少ない。

こうした中で、国立女性教育会館の「女性アーカイブセンター機能に関する調査研究」（平成17-18年度）は先行研究として唯一のものと言える。この研究によって女性関連資料の所在など、基本となる資料の状況が明らかになった。同時に女性アーカイブとしての要件について考察し、方向を提示した。

本研究は、この先行研究を踏まえて、2007年度は、個別資料に当たり、そこから女性関連資料の評価の方法、基準等を中心に検討を行いつつ、女性アーカイブの構築と提供に関する調査研究を、2008年度は、女性アーカイブの活用方法の研究と活用プログラムの開発、2009年度は、全国に点在する女性関連資料を全体的に把握できるような総合目録を作成するための実践的研究を行った。

## 2. 研究の目的

- (1) 女性関連資料を分析・評価し、男女共同参画の社会的プロセス、キャリア形成、リーダー形成等の視点からその位置づけを明らかにする。
- (2) 位置づけを明らかにした資料を女性アーカイブとして提供するための具体的、かつ効果的な方法を明らかにする。
- (3) 女性アーカイブの多面的活用方法を明らかにする。
- (4) 全国的視点から、日本における「全国女

性アーカイブ総合目録」に必要な構成要素を明らかにするとともに、データベースを構築する。

## 3. 研究の方法

### (1) 女性アーカイブについての基礎的研究 (2007年度)

国立女性教育会館受入資料のうち、以下のコレクションを取り上げ、第一に男女共同参画社会の実現に向けた社会的プロセスの視点、第二にキャリア形成、リーダー形成の視点に基づき、分析と評価を行った。

#### ① 奥むめおコレクション (戦前・戦中・戦後を通して暮らしに根づいた女性運動を展開した奥むめお (1895~1997) に関する資料)

第一の視点から戦前および戦後にかけての奥を中心とした女性団体活動の分析を、第二の視点から奥のキャリア形成およびリーダー形成の過程を分析した。

#### ② 全国婦人新聞社取材写真コレクション (女性問題専門紙『女性ニュース』(旧『全国婦人新聞』全国婦人新聞社発行)の取材写真)

第一の視点から「国連婦人の10年」の後半期における女性の民間活動の実態を解明し、男女行動参画社会へのプロセスを明らかにした。

#### ③ 稲取婦人学級資料 (文部省が昭和29(1954)年度から昭和31(1956)年度にかけて実施した稲取実験婦人学級に関する資料)

第一の視点から女性の学習活動の方法について分析した。

### (2) 女性デジタルアーカイブシステム構築のための調査研究 (2007年度)

「女性アーカイブセンター機能に関する調査研究」（平成17-18年度、国立女性教育会館）において示された仕様に基づき、「女性デジタルアーカイブシステム」を構築した。

(1)で取り上げたコレクションを中心とした5,000件超の目録データの作成と一部資料の電子化を実施し、データを本システムに搭載して試験的に公開した。公開にあたり、検索メニューとして男女共同参画年表等を用い、データの効果的な提供方法について検証した。

### (3) 女性アーカイブの活用に関する調査研究 (2008年度)

男女共同参画社会の推進、女性のキャリア形成、地方の女性関連施設等における女性アーカイブ構築の支援等の目的に女性アーカイブを活用するため、(1)の資料分析・研究に基づき、実践的なプログラム研究を行った。

#### ① 奥むめおコレクションを活用した若者向けプログラムの開発

社会活動キャリアの事例として奥むめおを取り上げ、男女共同参画意識をもち、歴史的・社会的な視点に立って個人のキャリアを形成することを目的とした、学生対象のプログラムを開発した。

②奥むめおコレクションを活用した女性のキャリア形成のための研修プログラムの実施

・「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」でワークショップ「女性アーカイブセンター所蔵資料から学ぶ女性の社会参画」を実施した。

・「女性のキャリア形成支援推進研修」で講義「パイオニア女性に学ぶ：キャリア形成の視点から奥むめおを読み解く—国立女性教育会館『アーカイブセンター』の資料から—」を実施した。

③女性アーカイブを構築する実務者を対象とした研修プログラムの開発

・女性アーカイブに関わる人材の育成・能力開発と人的ネットワークの構築を目的としたプログラム「女性情報アーキビスト入門講座」のシラバス案を作成した。

(4)全国女性アーカイブ総合目録構築のための調査研究(2008、2009年度)

全国の図書館、文書館、女性関連施設等1,246機関を対象に「全国女性アーカイブ所在調査」を実施し、788機関から回答を得た。この結果をもとに「全国女性アーカイブ所在情報データベース」構築のため必要なデータ構成要素等を検討し、2009年度に同データベースを構築・公開した。

(5)女性アーカイブの構築・活用に関する実践活動研究(2009年度)

①(3)①で開発したプログラムを基に、キャリア形成を目的とした大学生対象の研修を実施した。

②(3)③で開発したプログラムを基に、「女性情報アーキビスト入門講座」を実施した。

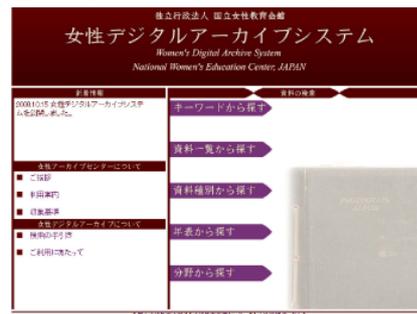
#### 4. 研究成果

(1)女性関連資料の分析・評価

国立女性教育会館受入の個々の資料を、男女共同参画社会の実現に向けた社会的プロセスの視点や、キャリア形成、リーダー形成の視点に基づいて分析・評価することで、個々の資料の価値を定めると同時に、女性関連資料分析の手法を確立した。

この成果を基に、「女性デジタルアーカイブシステム」搭載の資料解説、国立女性教育会館女性アーカイブセンター資料展示にて配布の資料解説、資料を活用した研修プログラムの開発など様々な成果が生まれ、資料の多面的な活用を図る際に、分析・評価が重要な基礎となることが示された。

#### (2)女性デジタルアーカイブシステム



女性デジタルアーカイブシステム

<http://w-archive.nwec.jp/>

本研究において構築した女性デジタルアーカイブシステムには、アーカイブ資料の特性に合わせて作成した目録データと、一部資料を電子化した画像を掲載している。これにより、時間、空間を気にすることなく資料の利用が可能になり、劣化が進み、文字が判読しにくくなった資料も、安全・簡便な利用が可能になった。

資料の効果的な提供を考え、キーワード検索のほか、ポスター、写真などから選ぶ資料種別検索、明治元年から近年までの女性史年表からその年の出来事に関わりのある資料を選ぶ年表検索など、様々な検索方法を用意している。

2007年度の試験公開を経て2008年10月に正式公開し、2009年度には累計約8,100件の目録データを掲載し、年間60,000件を超えるアクセスがあった。

後述の「全国女性アーカイブ所在情報データベース」へのリンクを設けているほか、各種データベース群、女性情報関連ホームページ群などを横断検索できる、国立女性教育会館提供の女性情報CASS (<http://winet.nwec.jp/hbs/index.html>)を通じて、他のデータベースとの横断検索ができるよう設定し、利用者がより多くの情報を得られるよう工夫している。

今後は関連施設とのネットワーク化を図ることにより、国立女性教育会館所蔵資料のみならず、他機関の女性関連資料の提供も行う窓口となることが期待される。

(3)女性アーカイブを活用した研修プログラムの開発と実施

(1)の資料分析を基に、奥むめおコレクションを活用した研修プログラムを開発、実施した。

①「女性アーカイブセンター所蔵資料から学ぶ女性の社会参画」

平成20年8月29日(金)16:00~18:00

場所：国立女性教育会館

交流推進委員：国立女性教育会館客員研究員

尼川洋子

研究発表者：国立女性教育会館客員研究員  
上村千賀子

国立女性教育会館主催男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラムのワークショップとして、男女共同参画の拠点づくりをテーマに講義とグループ討議を行った。

②「パイオニア女性に学ぶ：キャリア形成の視点から奥むめおを読み解く～国立女性教育会館『女性アーカイブセンター』の資料から」

平成 20 年 10 月 9 日(木)9:00～9:45

場所：国立女性教育会館

情報提供者：国立女性教育会館客員研究員  
上村千賀子

参加者：76 名

女性のキャリア形成の事例として奥むめおを題材に講義を行った。

①「どう活用する女性アーカイブー学ぶ、調べる、楽しむ」

平成 21 年 8 月 30 日(日) 9:00～11:00

場所：国立女性教育会館

交流推進委員：国立女性教育会館客員研究員  
青木玲子

施策説明者・事例提供者：埼玉県立文書館主任学芸員 新井浩文

研究発表者・事例提供者：渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長 小出いずみ、国立女性教育会館客員研究員 上村千賀子

参加者：31 名

国立女性教育会館主催男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)のワークショップとして、奥むめおコレクションを活用した研修プログラムの開発について事例報告を行った。

他の発表者とともに今後の活用に向けた提案を行い、女性アーカイブの活用について意見交換を行った。

②川村学園女子大学・キャリアセミナー in NWEC「私のキャリアを考える～これから社会に出るあなたへ」

平成 21 年 9 月 11 日(金)～12 日(土)(1泊 2 日)

場所：国立女性教育会館

参加者：川村学園女子大学生 21 名

社会活動キャリアの事例として奥むめおを取り上げ、男女共同参画意識をもち、歴史的・社会的な視点に立って個人のキャリアを形成することを目的に講義とグループ討議から成るセミナーを行った。

③大学生等ライフプランニング支援コース～アーカイブを用いたロールモデル分析～

平成 21 年 10 月 8 日(木) 13:00～14:30

場所：国立女性教育会館

学習支援：国立女性教育会館研究国際室客員研究員 飯島絵理、国立女性教育会館事業課専門職員 佐國勝

事例提供者：国立女性教育会館情報課客員研究員 上村千賀子

参加者：15 名

国立女性教育会館主催女性のキャリア形成支援推進研修のワークショップとして、②の事例を報告し、大学生等のキャリア形成に必要な支援について意見交換を行った。

以上のプログラム開発・実施により、対象者ごとに様々な切り口から、女性アーカイブを活用した研修プログラムを実施できることが証明された。

ことに大学生向けのプログラムについては、2010 年度に埼玉大学との連携授業を行うなど、その後も発展し続けている。

(4)女性アーカイブを扱う実務者向け研修プログラムの開発と実施

「女性情報アーキビスト入門講座」

平成 22 年 2 月 8 日(月)～9 日(火)(1泊 2 日)

場所：国立女性教育会館

参加者：80 名

全国の女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者を対象に、女性アーカイブ整理のための基礎知識、著作権の考え方、保存技術、活用方法といった具体的な手法の習得と、相互の情報交換を行い、全国に散在する女性アーカイブの構築・活用とネットワークの形成を図った。

本講座では、定員を上回る大幅な受講申込があり、女性アーカイブの保存・提供・活用に関する知識、技術、情報について実務者の高い要求があることがあらためてわかった。

今後も同様の研修、あるいは入門から発展した応用の研修プログラムを開発、実施していきたい。

(5)全国女性アーカイブ所在情報データベース



全国女性アーカイブ所在情報データベース  
[http://winet.nwec.jp/w-archive\\_japan/](http://winet.nwec.jp/w-archive_japan/)

本研究において構築し、2009年1月に公開した全国女性アーカイブ所在情報データベースは、日本国内各地の女性関連資料を保存・公開している施設・機関・団体の情報をデータベース化したもので、各機関で所蔵する女性アーカイブの概要、利用できるサービスなどを掲載している。

キーワード検索のほか、機関種別検索、地域/都道府県別検索を用意し、シンプルな操作で目的の情報を得られるよう配慮している。また、女性デジタルアーカイブシステム同様、国立女性教育会館提供の女性情報CASSを通じて、他のデータベースとの横断検索が可能である。

本データベースの構築・公開により、これまで所在情報が広く知られていなかった、女性関連資料の存在が広く一般に明らかになり、女性教育のナショナルセンターである国立女性教育会館を中核とした関係機関のネットワークを形成することが可能になった。現在112機関の情報を掲載しているが、今後、必要に応じて各機関の情報を更新し、より多くの機関情報を追加することで、充実した情報を提供し、女性アーカイブの収集と活用を促進していく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①江川和子、専門情報データベースのつくり方・使い方——女性情報ポータル”Winet”を事例として、専門図書館、査読無、No. 237、2009、99-103

②安達一寿、デジタルアーカイブの現状と国立女性教育会館女性アーカイブ構築、国立女性教育会館研究ジャーナル、査読有、No. 12、2008、28-37、

[http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo\\_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012004](http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012004)

③上村千賀子、奥むめおコレクション：暮らしに根づいた女性運動の軌跡、国立女性教育会館研究ジャーナル、査読有、No. 12、2008、38-40、

[http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo\\_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012005](http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012005)

④矢口悦子、稲取婦人学級コレクション：「主婦」たちの学習記録、国立女性教育会館研究ジャーナル、査読有、No. 12、2008、41-46、[http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo\\_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012006](http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=NWEC-KJ012006)

〔学会発表〕(計2件)

①江川和子、安達一寿、国立女性教育会館女性デジタルアーカイブシステムの公開に関する研究、日本/教育情報学会/第24回年会、

平成20年8月20日、大妻女子大学多摩キャンパス

②安達一寿、国立女性教育会館女性アーカイブ構築に関する調査研究、日本教育情報学会、平成19年8月20日、常磐大学

〔その他〕

ホームページ等

①ホームページ情報、女性デジタルアーカイブシステム

<http://w-archive.nwec.jp/>

②ホームページ情報、全国女性アーカイブ所在情報データベース

[http://winet.nwec.jp/w-archive\\_japan/](http://winet.nwec.jp/w-archive_japan/)

③ポスターセッション・口頭発表、第11回図書館総合展/学術情報オープンサミット2009、平成21年11月10日～12日、パシフィコ横浜

④講演、国立女性教育会館提供のデータベース～使う・つくる～、専門図書館協議会イニングセミナー、平成21年2月18日、日本図書館協会会館

⑤資料・パネル展示、図書館と県民のつどい埼玉2008、平成20年11月1日、浦和コミュニティセンター

⑥記事掲載、国立女性教育会館女性情報アーキビスト入門講座を実施しました、共同参画、平成22年4・5月号、2010、p.17

⑦記事掲載、国立女性教育会館全国女性アーカイブ所在情報データベース公開、共同参画、平成22年2月号、2010、p.20

⑧記事掲載、就職セミナーに参加して「私のキャリアを考える」in NWEC、川村学園女子大学人間文化学部日本文化学科News Letter、第9号、2010、4-5

⑨記事掲載、林恒子、公文書館基本構想検討委員会市民利用会議委員からの提言 付記：女性アーカイブセンターと国立公文書館、札幌市文化資料室研究紀要、第2号、2010、50-51

⑩記事掲載、国立女性教育会館女性デジタルアーカイブシステムの公開、岩手県男女共同参画センターいわて de とともに通信、No.11、2009

⑪記事掲載、図書館と県民のつどい埼玉2008記録、埼玉県大学・短期大学図書館協議会SALA会報、No.17、2009、p.7

⑫記事掲載、江川和子、地域女性アーカイブの構築を目指して、資料保管の現状を知る：静岡県内における男女共同参画に関する資料の保管保存状態はどのようになっているか(平成20年度男女共同参画に関する研究調査事業報告書)、2009、巻頭

⑬記事掲載、佐藤正恵、独立行政法人国立女性教育会館女性教育情報センター・女性アーカイブセンター、専門図書館、No.233、52-53

⑭記事掲載、国立女性教育会館女性デジタル

アーカイブシステム公開、共同参画、平成 21 年 3 月号、2009、p. 20

⑮記事掲載、西村昭子、女性アーカイブセンターの開設、生涯学習情報ファイル事例編 2、第一法規出版、5311-5318

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

神田 道子 (KANDA MICHIKO)  
独立行政法人国立女性教育会館・理事長  
研究者番号：70058030

### (2) 研究分担者

青木 玲子 (AOKI REIKO)

和光大学・非常勤講師

研究者番号：80440220

(H19→H20: 連携研究者)

安達 一寿 (ADACHI KAZUHISA)

十文字学園女子大学・社会情報学部・教授

研究者番号：60222618

(H19→H20: 連携研究者)

尼川 洋子 (AMAKAWA YOKO)

神戸大学・男女共同参画推進室・インキュ

ベーションコーディネーター

研究者番号：90415357

(H19→H20: 連携研究者)

上村 千賀子 (UEMURA CHIKAKO)

独立行政法人国立女性教育会館・研究員

研究者番号：70259985

小林 千枝子 (KOBAYASHI CHIEKO)

独立行政法人国立女性教育会館・調査役

研究者番号：30415343

多仁 照廣 (TANI TERUHIRO)

敦賀短期大学・地域総合科学科・教授

研究者番号：70197515

(H19→H20: 連携研究者)

野口 眞代 (NOGUCHI MASAYO)

洗足学園短期大学・幼児教育保育科・教授

研究者番号：50092599

(H19→H20: 連携研究者)

羽田野 慶子 (HATANO KEIKO)

福井大学・教育地域科学部・准教授

研究者番号：50415353

(H19→H20: 辞退)

森 未知 (MORI MICHI)

独立行政法人国立女性教育会館・情報課・

専門職員

研究者番号：20415350

矢口 悦子 (YAGUCHI ETSUKO)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：20331449

(H19→H20: 連携研究者)

江川 和子 (EGAWA KAZUKO)

独立行政法人国立女性教育会館・情報課・

情報課長

研究者番号：70466043

西村 昭子 (NISHIMURA AKIKO)

独立行政法人国立女性教育会館・情報課・  
専門職員

研究者番号：60524668

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：